



ぶらり社南～南江守編～



⑪左義長



③佛照寺

遍照山と号し、真宗仏光寺派。本尊阿彌陀如来(鎌倉時代の作)。真宗高田派→真宗中野専照寺末に帰し善照寺と号した。その後、仏光寺派に帰し佛照寺と改号。開祖;善連。印牧庵・上池庵が付属しており、いずれも医事に巧みであった。朝倉時代から天正年間にかけての中世文書約20通を蔵する。大部分は印牧庵のものである。薬師如来像(十一面観音)は一乗谷の朝倉氏より贈られたと伝えられている。



①至民中学校

平成20年3月28日竣工式
平成20年4月7日(入学式;移転開校)

牛首(うしくび):昔、ここの田に温泉が出たといわれている。そのお湯がまわりの田にも流れ込むため、苗が枯れてしまった。牛の首をもらってきて湯の出口に埋めると湯が止まり、他の苗は良く育ち米を収穫することができるようになったという。



②古代の北陸道

律令時代五畿七道(中央である五畿と地方である七道)が制定された。七道のそれぞれに駅路が引かれ、大路・中路・小路に区分され、北陸道は小路だったことになる。輿平衛の渡しから杉谷区間のルートは4つの説があり、古代には、ここを越える杉谷越という峠道が存在していた。江戸時代に書かれた古文書などにはここに古道があったことの記載があり、そのうちの2つのルートが重なるこの峠には「右南江守村、左合谷村」と書かれた道しるべの石碑があったとのこと。



⑨輿平衛の渡し

北陸古道を横切る江端川の渡し舟。田辺輿平衛家(昔、茅葺の家があって住まいにされていた)が代々受け継ぎ、多くの旅人や近郷近在の人々に利用されたという。この「輿平衛の渡し」を地元では屋号として「渡し」と呼んでいた。

⑤盛福寺

越の国三十三番札所第二十四番 天台真盛宗、紫雲山盛福寺、観世音菩薩を祀る。足羽郡麻生津村三十八社(現福井市)から移転勧請されたのは延宝年間(1670年頃)であったと推測されている。西光寺(柴田勝家公の菩提寺)住職が兼務。お正月の初参り、節分の豆まき、盆踊りと集いの場であった。戦後は竹内真尚僧が日曜学校を開催されていた。



⑧吉田修理の屋敷跡

実名好寛。越前松平家の家臣。美濃の国に生まれ、もと豊臣秀次の家臣で石橋彦四郎と称していた。後、福井藩初代藩主結城秀康公に仕えた。兵事に詳しく深謀遠慮であったので秀康公から非常に信頼され、足羽郡南江守に1万4千石を与えられた。1601(慶長6)年、秀康公の「北ノ庄城改築」では、三の丸と外曲輪の縄張りを引き継いだといわれる。屋敷は「南江守村の内十間許の所あり」と伝わるが不詳。

④江守城跡

南北朝時代。太平記には、南江守城と記されている。籠城の炊事場に使用したという洞窟があった。山麓より釣瓶で水を組み上げたため、一の釣瓶、二の釣瓶の称があり、この城山を「高釣瓶山(たかつるべやま)」と呼ぶ。斯波高経が新田義貞軍に対抗した足羽七城の一つである。

⑥犁(からすき)神社

創建718(養老2)年。祭神;豊受姫命(とよけひめのみこと)、天照皇大神(あまてらすすめのおかみ)、菊理姫命(きくりひめのみこと)、応神天皇。合祀;八幡神社、神明神社。宮司;足羽神社宮司が兼務。氏子;55戸。護持;犁(からすき)神社奉賛会。明治42年に社殿を建造、昭和59年に新しく神社殿を完成。以前は現在の境内から60段、11メートル程高く100坪位のところに神殿があった。



⑦ししなご

この神社の境内では、小豆粒ほどの光る石が出た。1辺が約5ミリ角の立方体で、黒茶色に光る鉱物だった。昔の子どもは、この光る石を集めて遊んだという。その石を子どもたちは「ししなご」といった。



⑩幻の金山

南江守の山に金が出る、と発掘する人が遠くから来たことがある。明治40年頃には一ヶ所は横穴、一ヶ所は縦穴で掘っていたようだ。2年あまり採掘作業を続けたそうだが、採掘量が多量にも少量なので、作業中止になったと伝えられている。